

中央大学学員会 熊本支部 会報

第4号
支部創設90周年
記念特別号

支部長挨拶

熊本支部90周年を迎えて

丸本 文紀 (昭和53年卒)



支部長の丸本でございます。中央大学学員会熊本支部は本年で90周年を迎えます。90年前の記録によりますと、昭和4年8月12日に初の支部総会が開催され、川上直行氏が初代支部長に就任されました。支部創立の記念学術講演会も3名の講師をお招きし、聴衆700名で立錐の余地なき盛況の中で開催されました。翌日は在校生を励ます会も画図湖畔の料亭で開催され、支部側は判事さん、弁護士さん、日銀熊本支店長、地元の経済界のそうそうたる顔ぶれが並んでおられます。このように当時の記録からは「熊本県支部を創立したぞ！」という先輩方の気概と熱気が今でも伝わってくるような気がします。

初代川上支部長の次から昭和27年まではどなたが支部長だったか記録はありません。昭和28年以後記録が残っている限りでは私は11人目の支部長にあたります。90周年を機に過去に思いを馳せてみれば諸先輩方の中央大学と学員会に対する思い、歴史、伝統の重みを強く感じます。

私と学員会のご縁は平成14年に「県民百貨店くまもと阪神」の社長就任時にさかのぼります。当時の尾池支部長が月刊誌熊本経済の記事で私が中央大学出身だと気付かれて直接お電話をいただきました。新入会員として幹事会によべれた時に百貨店経営の大先輩である宮嶋先輩(当時商工会議所会頭並びに鶴屋百貨店会長)に初めてお会いすることができました。百貨店経営について全くの素人の私に本当に親身になってアドバイスをしていたいただいた御恩は今でも忘れません。今は鬼籍に入りましたが尾池先輩、安田先輩の二人をはじめ県内の経済界の有力メンバーが活発に支部活動されておられたお姿が懐かしく思い出されます。

最後に学員会熊本支部を90年前に創立された初代川上支部長はじめ諸先輩方の思いとこれまで伝統と歴史を築いてこられた幾多の学員会の皆さんのご尽力に感謝しながら、今後の熊本支部の発展と学員会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

熊本県支部の創設90周年への祝辞

学校法人中央大学
理事長 大村 雅彦



中央大学学員会熊本支部が創設90周年を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。これだけ長く活発に支部活動を続けて来られましたのも、丸本文紀支部長様はじめ、歴代の多数の役員の皆様の並々ならぬ献身的なご努力の賜物ではないかと拝察致します。心からの敬意とともにお祝いを申し上げます。

また、熊本県支部の皆様には、震災の多大な影響がまだ残っているにもかかわらず、母校中央大学発展のために温かいご支援とご協力を頂いており、この場をお借りして篤く御礼申し上げます。熊本県の完全な復興と発展を心から祈念申し上げます。

一昨年の8月、安田征史元支部長(学員会副会長)が不慮の事故で亡くなられたことは、誠に残念でありました。その年の5月に私が中央大学理事長に就任した直後、安田さんから温かい激励の言葉をかけていただき、また、7月には多額のご寄付を頂戴したため、御礼のご挨拶に伺おうと思っ

いた矢先の8月半ばに訃報に接し、言葉もありませんでした。ご葬儀の日には出張予定が入っていたため、その直前に熊本へ飛んで、棺の中で安らかに眠っておられる安田さんに手を合わせる機会を頂いたのが、私にできる唯一の供養でした。また、その際、お忙しい中、車で案内して下さった岩田英志さんには改めて感謝申し上げます。

さて、中央大学は本年で創立134年目を迎えます。中長期事業計画 CHUO VISION 2025 も4年目に入ります。本年4月には、新たな2つの学部がスタートし、多摩キャンパスでも都心でも、中央大学のプレゼンスが高まりました。加えて、多摩キャンパスにおいてグローバル館(仮称)と国際教育寮の着工があり、さらに、文京区への法学部の移転のめどが立ってきました。このように、母校は今、大きく力強く動き出そうとしているところであります。これもひとえに諸先輩方が築き上げて来られた伝統と学員の皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。

末筆ながら、学員会熊本支部が今後ますます発展されますこと、また、皆様のより一層のご活躍、ご多幸を心から祈念申し上げます。90周年のお祝いのご挨拶と致します。

熊本支部の発展よ、永遠なれ!

中央大学
総長 酒井 正三郎



中央大学学員会熊本支部創設90年、おめでとうございます。中央大学は本年度創立134年目であり、熊本支部は大学の歴史のほぼ3分の2の時を大学とともに過ごし、手を携えて歩んできたということになります。さまざまな諸困難を乗り越えて、支部の今日ある隆盛の基礎を築いてこられた歴代の支部長をはじめ役員の方々が、ご関係の皆さまには心より敬意を表する次第です。

なかでも、一昨年8月にお亡くなりになりました安田征史元支部長は、学員会副会長をも務めながら支部の発展に多大なる貢献を果たしてこられました。私事にわたり恐縮ですが、安田さんからは私自身、総長として学長として折にふれて声をかけていただき、激励していただきました。また、「2017年度中央大学学術講演会」(講演テーマ「変貌する中国―世界第2の経済大国の行方―」)の講師として本支部にお招きに与りましたのも、安田さんの斡旋によるものでした。大学および支部の発展を第一に考え、つねに腐心してこられた安田さんのご姿勢にあためて敬意と謝意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、2016年より本格的に実施されてきております中央大学中期事業計画〈Chuo Vision 2025〉も折り返し点にさしかかりつつあり、法学部の都心移転、多摩モノレール駅周辺の再開発を中心とするキャンパス整備をはじめ、諸事業が今大きく進展してきております。とりわけ、本年4月にスタートする2つの新学部(国際経営学部、国際情報学部)は、先般実施されました入試において、万2000名余の志願者を集め、社会および受験界より好意的に迎えられました(ちなみに、中央大学全体としての本年度の入試志願者数は、この新学部の奏効もあって本学として初めて9万人の大白を突破しています)。

中央大学が今後「実地応用の素を養う」という建学の精神を前面に押し立てて、世界に存在感のある大学を目指して躍進を続けていくには、この中長期事業計画の成功が絶対的条件です。その遂行途上においては、あらゆる困難に直面して皆様に大学へのご支援等をお願いに上る機会もあろうかと存じますが、その節にはぜひ従前同様のご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、中央大学学員会熊本支部のますますのご発展、ご関係の皆さま方の一層のご健勝、ご活躍を心より祈念をいたします。このたびは、まことにありがとうございました。

支部創立90周年を祝して

学員会会長 久野 修慈



中央大学学員会熊本支部創立90周年、誠にありがとうございます。創立90周年をお慶びに言葉では言い尽くせない母校白門への力強い熱情そのものであり、心からお慶び申し上げます。

熊本支部の創立は1929年(昭和4年)8月12日同日支部が創立され、創立記念の講演会が開催され白門同志喜びに浸った記録が残されて居ります。創立に先立ち記念講演会が聴衆700名の中、盛大に開かれ中大の学風、沿革や当時の経済問題、金解禁の講演など(三輪末彦、川原次吉郎、前田米蔵学員諸氏)が催され、学校側を代表し小林一郎先生が熱弁を振るわれたこと、創立時の学員の皆様に心からの感動を与えたことが記されています。想えば創立の日の大きな白門魂、大きな心の結びつきが長い変遷を経て90周年をお迎えるようになったこと感動の極みであります。が、当時の学員の皆様にこやかな笑顔がその日の記録から思い浮かばれ90年の歴史の重みを痛感してなりません。

当時の学員側の方々も八代區小八重裁判官、日銀熊本守川支店長、熊本地方放送局伴理事など多種多様な白門の方が熊本魂のもと結集されたとの事ですが、この伝統がその後の方々(中野、金田、山中、山本、原、宮嶋、尾池、安田、福永、丸本各支

部長)に引き継がれ、熊本法曹会の方々、経済界の方々、政界行政あらゆる方面の方々が熊本県の繁栄、母校の繁栄、熊本中大人の相互の繁栄を願いお互い協力し結集されて来られたのが、この90周年であると存じます。

90年の長きに亘りこれを支えて来られた、亡くなられた熊本支部学員の方々に心から感謝申し上げますと共にこれをリードされて来られた亡き熊本政財界の藤田、北口、尾池、安田氏その他の方々などの心づくしにも感謝申し上げます。

それだけに熊本支部学員の皆様に於かれては、この90周年感動と感佩の日であると存じます。

この90年の間には国内、国際面でも多くの苦しい社会経済問題もあり、学員の方々もご苦労されると共に直近では熊本地震など大変な時期を熊本人として白門人として学員心を合わせ乗り越えて来られたこと慶賀の至りです。

現在の九州地区には沖繩を含め9支部があり、熊本支部の方々は九州の中心的立場で学員会活動の強化に全力を注がれて来られたこと感謝に堪えません。

今後共、熊本白門魂のもと一層結集発展され、長い歴史を積み重ねられることを期待申し上げます。

最後に熊本学員全ての方々、熊本城とくまモンのように燃えに燃えられ、新しい年代を迎える年を機会に将来に向け一層ご発展ご隆盛されまことをご祈念し、お祝いの言葉と致します。

学員の皆様、90周年本日に本当におめでとうございます。

中央大学とオリンピック

学員会副会長 大木田 守



全国の注目を集める熊本支部の結成90周年おめでとうございます。

「東京オリンピックに寄せて」の原稿依頼をいただきました。一年後の夏、世界最大のスポーツの祭典が再び東京にやってくる。オリンピック大会の組織委員会はこのアピールをしています。

「アスリートの輝きは世界中に広がり、あらゆる人々をつなぎ、その瞬間、世界をひとつにする。」

大会に参加したすべての人々の輝きは、かけがえのない財産となり、未来へつながっていく。さあ、みんなの力で、オリンピック・パラリンピックを輝かせよう」大会ビジョン。

スポーツには世界と未来を変える力がある。昭和39年の東京大会は日本を大きく変えた。

一年後の東京大会は「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」「一人ひとりが互いに認め合い(多様性と調和)」

「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を三つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする、となっています。

私はオリンピックが東京に決定した直後の中央大学ホームカミングデーの実行委員会として、中央大学とオリンピックの企画を立て、その後4年間、毎回、学員体育会を中心にオリンピックの企画を行ってきました。

現在中央大学出身者のメダリストは31名です。大学のトップクラスです。そのパネルを会場に展示し、ミュンヘン五輪金メダリストの木村憲治さん(昭和43年卒、元日本バレーボール協会会長)にオリンピックと私をテーマに講演してもらいました。

世界から見た日本の技術や身長格差をオリンピックで目の当りにした木村氏。

平均身長も低い日本が世界に挑めたのは、「自分にしかできないプレー」を具現化できたからと、木村氏は言う。そして、それが今のBクイックを生んだ。また、当時の松平監督からコーチングを学び、「一人一人が世界一の武器を持って」「考えるということ」「指示待ち人間にならない」の三つを今でも心に刻んでいる。

オリンピック出場自体を目標にするのではなく、金メダルを取るという強い気持ちをもって取り組まないとオリンピック出場もできなくなっていくのではないかと、金メダルは金銭的な価値はないが、人生の中では大きな支えになつてくれるものと語っています。

この時、オリンピック担当大臣の遠藤さんも中央で、組織委員会副会長で秋山東京都副知事も中央、総務局長で大学連携担当の雑賀さんも中央と要職を占めていたので皆さんにそれぞれ語っていただきました。

中央大学として今回のオリンピックに20名の選手を出すことを目標としています。

今年、26年ぶりに新学部が二つスタートします。国際経営学部、国際情報学部、また法学部の都心展開も大きく動きます。多摩では学部共通棟、国際寮の建設と新しい時代へ中央大学が大きく動く一年になります。

熊本支部の皆さんと共に母校中央大学の大きな発展のために力を尽くしていきます。

コラム

花畑・桜町が変わる

熊本県文化協会名誉会長 吉丸 良治(昭和41年卒)



現在の花畑公園から坪井川までの一带は、かつての歴史ある花畑屋敷跡であります。総坪数14、765坪で、熊本城の庭つづき屋敷といった役割を果たしていたようです。

花畑屋敷は、加藤清正が熊本城の築城を終えたあと、1610年頃庭園を造り「花畑」にしたことに始まります。このとき同地に鎮座していた四木宮(のち代継宮)が白川の南側に遷座されます。加藤家が二代忠広のおり改易になった後に、豊前小倉城主から肥後入国した細川忠利は、引き続き花畑屋敷を整理し、藩政治の中心としていきます。白川からの導水で庭園も整理されます。藩の主要な行事もここで行われるようになり、剣豪宮本武蔵も新年の賀詞にこちらを訪れているほどです。

参勤交代は、藩にとつて最大の行事でした。幕命であり、無断での遅延などは藩の取り潰しにも影響するといわれています。花畑屋敷前の広小路から千数百人、江戸までの280里、30日余を要して参勤していたのです。1年後には、同じように花畑屋敷まで帰国する交代行事が二百数十年続き、明治を迎えます。

明治になり、熊本の様相は一変してきます。九州の中心熊本に、九州軍務の中心として九州鎮台(のち第六師団)が置かれ、花畑屋敷と熊本城は軍部熊本の中心拠点となっています。広大な花畑屋敷は、屋敷の西南端の一部が今日の花畑公園として残るのみで、広く軍用地となつていきました。

しかし、広大になった練兵場、軍用地も移転・移設を求める声が高まり、明治33年以降、徐々に大江、渡鹿へ移転した

ため、その跡地には新しい町づくりが始まります。九州一のたばこ専売局と工場が設置され、新しい町の整備が進み、やがて公会堂、貯金局、勸業館、銀丁百貨店、新市街の映画館などに広がり賑わっていました。

昭和20年7月の空襲で熊本市は焦土となりました。白川公園の西側に建設され、戦後復興の中心となっていきます。復興を終えた県庁は、昭和42年に水前寺の現在地へ移転し、跡地には東洋一といわれた熊本交通センターや百貨店が立地し、賑わいの拠点となつていきます。

そして今日、交通センター一帯は県内最大の桜町再開発事業が進んでおり、2019年9月の完成を目指しています。再開発事業で誕生する複合施設は、公益施設の熊本城ホールやシネコン、バスターミナル、商業施設の他、ホテル(205室)やマンションなどが一体となっています。総合施設のなかで特に注目されているのが熊本城ホール。九州最大級のメインホール(2、300人収容)や展示ホール、会議室などを備え、これらは12月1日の開業といわれています。

花畑、桜町一帯は、四木宮(代継宮)時代から1、000年、加藤・細川時代から400年、熊本を中心にあって歴史的大きな役割を果たしてきましたが、今新しい時代を迎え大きく飛躍しようとしています。これまで先人が築いた歴史を知り、語り継いでいくことは熊本人のアイデンティティにつながることであり、熊本人として大切にしていきたいと思えます。



企業訪問

熊本中央信用金庫

熊本中央信用金庫理事長
沼田 雄一(昭和55年卒)



「私の原点」

卒業と同時に熊本中央信用金庫に入庫、金庫生活も今年ではや四十年目となりました。

先ずは、当金庫について少し紹介させていただきます。大正十二年十二月、第一次世界大戦および関東大震災後の混乱期に「相互扶助の精神」を基本理念として、地域の工商业者の資金の円滑と貯蓄の奨励を目的に水俣信用組合として設立されました。昭和二十六年の信用金庫法制定に伴い水俣信用金庫に改組し、昭和四十六年に玉名市にあった有明信用金庫との合併を経て、



現在に至っています。今年で設立九十六周年を迎えることとなりました。
さて、私の最初の勤務地は、出身地の竜北町(現氷川町)に近い八代支店に配属されました。

当時の日本経済は高度成長期が終わり、安定成長の時期に入っていたものの、現在と比較すれば金融機関の経営環境は恵まれており、一年物の定期預金の金利が、7・85%もあり、あまり預金勧誘に苦労する事は無かったように思います。また、貸出金利も10%近くあったにも拘らず、融資先に事欠くことは無く、収益環境も長引く超低金利の現在とは、隔世の感があります。

入庫当初は、主に窓口担当として定期性預金や当座預金を担当しました。当時、オンラインが導入されたばかりで、毎日の集計作業は、まだ算盤が主流であり、小学校以来算盤が苦手の私は、毎日、女性の先輩方に怒られてばかりで、大変苦労した思い出があります。その後、融資業務など一通りの仕事を経験し、入庫三年目にして、いよいよ営業の最先端である得意先係としてデビューしました。当然、内勤時代と違い毎月の獲得ノルマは、大きく異なります。当初はかなりの不安もありましたが、上司や先輩の教えに倣い、とにかく先ずは、会話を通じて自分のことを知ってもらい、お客様のことをよく知ることから始めました。幸い高校が八代市内であったことから、ある程度の地縁人縁もあり、日が経つにつれ

コミュニケーションの幅も広がり、信頼関係も自然と構築することができました。今思えばこの時期に地域のこと、お客様のことは、誰より自分が一番知っているとの自負も芽生えたように思います。

あれから三十数年経過し、最近はお客様と直接触れ合う機会も限定されてきましたが、職員には事あるごとに、信用金庫の原点である「地域やお客様をよく知ること。」の重要性を説いています。今、金融機関には、個別の事業性評価なるものが、求められていますが、まさに当時の活動が、今の時代にも通じていると思います。

今、熊本の地域経済は復興需要も一巡し、景気の回復を実感として捉えにくい状況にあります。私はこれから地域やお客様と深く関わりながら、地域金融機関の一員として微力ながら、地元熊本経済の活性化の一助となるよう鋭意取り組んでいく所存であります。



熊本中央信用金庫本店(熊本市中央区)

(有)西銀座会館
(有)オフィス・リジン

代表取締役

荒木 誠也

(昭和44年卒)

公認会計士・税理士
京都大学 経営管理大学院
特命教授

吉永 茂

(昭和42年卒)

熊本県文化協会会長
九州産業交通
ホールディングス(株)

顧問

吉丸 良治

(昭和41年卒)

岩本俊雄税理士事務所

所長

岩本 俊雄

(昭和40年卒)

(順不同)

企業訪問

肥後銀行

肥後銀行鏡支店
藤本 由貴 (平成25年卒)



こんにちは。平成25年、商学部商業・貿易学科卒業の藤本由貴と申します。

現在は肥後銀行鏡支店に在籍しております。宇土支店に入学し、出納業務、窓口業務を経験しました。現在の鏡支店に異動後は、融資係で個人ローンを担当し、現在は渉外係として資産運用のご案内を主に担当しています。

熊本に帰って来ようと思ったきっかけは、就職採用試験の時です。東京で就職試験が行われましたが、面接の際に初めて会う人たちが皆とても親しみやすく、故郷の懐かしさや温かさを感じた瞬間でした。最終面接で一緒に面接を受けた同期は今も仲が良く、東京にいながらも熊本の居心地の良さを感じ、熊本の地で働くことを決めました。銀行に入学し、6年が経ちます。その6年の中でも、社会情勢・環境も大きく変化し、銀行内部でもここ1〜2年は特に大きな変化を感じます。日本銀行が導入したマイナス金利政策により、金融機関が利ざやだけでは収益を上げていくことが困難な状況となっています。これまで以上に金利以外で選

ばれる金融機関として、お客様一人ひとりに合わせたサービスの提供はもちろんですが、行員自身の能力・品質の向上が求められています。私自身も財務・税務、簿記の勉強や、特にここ最近でマーケット環境が激変していますので、市場動向の把握を怠らないよう日々情報収集をしています。きちんと自分自身が理解した上で、お客さまへ情報提供できるよう資格の取得、休日セミナーへの参加等、社会人になつてからも勉強が必要だと感じる毎日です。銀行内部でも、ペーパーレス化、IT化が進んでおり、ATMやインターネットでできるサービスが増えています。資源の削減やお客様のご負担も減る代わりに、行員とお客さまとの関わりも減ってしまいますので、これまで以上にお客様との接点を増やし、訪問・対話を重ねていけるような営業活動を意識しています。

当グループでは、2017年に九州FG証券を立ち上げ、銀行窓口でも証券の仲介業の取扱いが始まりました。今後は相続や遺言のお手伝いを行う信託業務にも力を入れております。銀行・証券・信託を活用し、ライフイベントに合わせた「地域総合金融機能」を熊本の皆さまにご提供していきたいと思

先日、学生時代の友人が皆で熊本を訪問してくれました。阿蘇・天草の自然を感じ、また遊びに来たいと喜んで帰って来ました。こうやって熊本に帰ってきたことで、熊本の良さを遠くの友人にも伝えることができ嬉しく感じています。学生時代の友人や恩師、学員会の皆さま、中央大学を通して出会えた人とのつながりを今後も大切にしていきたいと思



肥後銀行鏡支店

合資会社 橋本商店

代表社員

橋本 和久

(昭和53年卒)

東良政税理士事務所

税理士

東 良政

(昭和52年卒)

株式会社 日本ビル管理

代表取締役

森本 茂樹

(昭和50年卒)

税理士法人
未来税務会計事務所

代表社員

西田 尚史

(昭和47年卒)

中大の
想い出

私と中大

中央大学剣友会
熊本県支部長
岩田 英志(昭和51年卒)



株式会社コーポレーション
代表取締役社長
岩田 英志

中央大学学員会熊本支部設立90周年からお祝い申し上げます。

設立90年の節目に昔を振り返り「私と中大」との関わりを懐かしく、紐解いてみたいな!と思います。

そもそも、中央大学にご縁を頂いたのは8代目支部長であり本部副会長の(故)安田征史先輩の父上、謙次先生でした。

私は、小学4年生から剣道を始め、昭和30年代までは学校に部活がなく道場に行かないと稽古が出来ない時代でした。

私は新町に住んでいましたが、父の勧めで水前寺成就園のそばの龍驤館という道場に行くことになりました。この龍驤館は全国で屈指の道場で当時九州学院から警視庁に行かれた西山先輩、中村先輩などが全日本選手権で優勝をされ、小学の部、中学の部も優勝校として常連でした(因みに私は全国大会で3位になりましたが優勝以外には評価なし)。とにかく日本一にこだわった道場でした。道場には小学生から高校生まで150人ぐらいたったと思います。稽古は芋洗いの状況でした。でもその時の稽古風景が懐かしいものです。

それから中学校に進学した時は、いつも道場で稽古を付けていたいた九州学院の先輩たちが見事全国制覇を成し遂げました、私は感動し、私も必ず九州学院に行き全国制覇を成し遂げたいと思い進学致しました、しかしインターハイは、ベスト8で敗退し残念ながら優勝はできませんでした。高校3年の試合生活は終わり、どこの大学に進学するか?そんな中、複数の大学からお誘い頂いておりましたが、その時、安田先輩の父上謙次先生の一言でした(龍驤館の後援会長で、その後私の父が会長を務めました)。「おい!岩田!剣道で日本一の大学、中央大学に行け!そして、監督は「赤胴鈴之助」のモデルになった津村耕作先生がおられる、征史(津村監督の1つ後輩)もいったので中大に行つて剣道日本一になってこい」と肩をたたかれ中央大学に進学を決めた次第でした。進学は決めたものの、どこの学部



元学長・総長高木先生と

に行くかは迷っており、その時先輩から剣道部の部長、高木友之助先生は(学長日2、5、総長日2、12年)文学部の学部長であることを知り、学部も検討しましたが、これからは先と卒業を考えると文学部しかないと思ひ、文学部史学科国史専攻に入学いたしました。

日本史が大変好きだったので楽しく勉強いたしました。(高木先生からは、息子のようになり可愛いがっていただきました)

いよいよ剣道日本一を目指しお茶の水の神田駿河台校舎に入学しました。道場は旧正門から入り左側の地下道場でした、隣がフエンスンゲ部、日本拳法部そして空手部、さらに奥の方に、(故)尾池先輩、(故)鈴木先輩出身の応援団部がありました。

昔の応援団は「やくざ風」の人が多く、映画で放映されました「花の応援団」の光景と一緒に今では考えられない時代でしたね。

また当時は、下火ではありましたが、全共闘大学紛争運動があり、デモなど頻繁にあり大学がロックアウトになり試験もレポート提出の時もございました。

ラッキーでした、その時の単位を稼いでいたお蔭で無事卒業することが出来たかな?ところで中央大学剣道部は、当時入部した時から全日本学生剣道の最多優勝校で2位の国士館には2回ほど差を付けていました。

私も、4年生の時必ずや優勝を!と目指しましたが、準決勝で敗れ大変悔しい残念な思いが今でも鮮明に残っています。又卒業を迎え就活もありました中、剣道で警視庁、大阪

府警、愛媛県警、熊本県警からお声がかかりましたが、父の会社の跡を継ぎたいと思ひ、父が勧めた寿屋に昭和51年に入社いたしました。それから7年後、自分で起業して時間もとれるようになり剣道部の先輩より、中央大学学員会熊本支部にご縁を頂きました。

私が入るときの支部長が山中先輩でしたが丁度その時、宮嶋先輩(鶴屋百貨店社長、商工会議所会頭)が交代なさった時でした。それから尾池先輩、安田先輩、福永先輩、10代目支部長の丸本さんです。大学入学から今日まで、諸先輩たちには大変お世話になりました。今があるのも多くの亡き先生、先輩たちのお蔭です。

先輩たちが築いてこられた中大に恥じないよう精進してまいります。本当にありがとうございます。

合掌

※中大剣道部は2018年10月、全日本学生剣道大会で見事に13回目の優勝を致しました。



津村監督と同期生

中大の
想い出

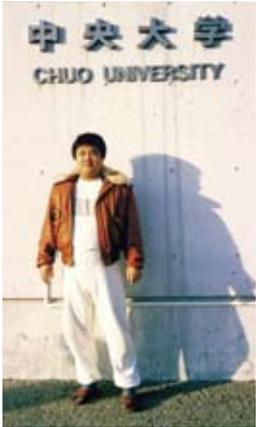
精神と肉体を鍛錬した四年間

熊本銀行執行役員
後藤 誠(昭和60年卒)



気づけば早いもので卒業して33年、大学入学から数えますと37年の歳月が流れておりました。あつと言う間の37年でありましたが、振り返りますと、この間の色々な方々との出会いや経験があったからこそ、今日の「自分」があると思っています。

私は大学時代体育連盟重量挙げ部に所属しておりました。「草のみどりに風薫る…中央の名よ光あれ！」。入部と同時に、まずは校歌の練習からスタートしました。2年生の先輩が指導員でしたが、たとえば今日が四国出身の先輩、次の日が東北出身の先輩と言う具合でしたので、先輩たちのなまりが夫々毎日違い、前日の音程で歌っていると、次の日の先輩からは、「音程が全然合っていない」と叱られ、音程を合わせるまで一苦労でした。お蔭様で、今でも校歌はきちんと歌えます。近年の体育会の現状は良くわかりませんが、当時の体育会では先輩から言われたこ



とに対しては、「拒否権」なるものが存在せず、「はい、わかりました」と答える以外選択肢はなかった時代です。今考えますと理不尽なこともいっぱいありました。特に、1年生と2年生の時の「良き思い出！」は、昨日のこの様に未だに脳裏に焼き付いています。1年生の時やった「ヒンズースクワット2000回」、2年生の夏合宿で行った当時の日本の石段、「羽黒山頂上までのダッシュ」等、思い出しただけでぞっとすることばかりです。また、何かへマをすると全て「連帯責任」でした。同期に東北出身のどんくさい奴がいました。随分と巻き添えを食いました(笑)。しかしながら、4年間の部活動を通じて得たものは本当に大きかったと思います。「集中力」、「精神力」、「連帯感」、「生涯の友」…、数えたらきりが無い位たくさんのもので得ていました。あの「精神と肉体を鍛錬した4年間」があったから

こそ、卒業してからの人生、こまめややってこれたと言っても過言ではありません。その他にも、県人会活動にも積極的に参加し、学園祭では毎年「桂花ラーメン」を出店していました。本当に良く売れました。当時の県人会活動は、宇土高校時代の同級生や先輩もいましたので、心やすらぐ安堵の場でした。また、アルバイトは何でもやりました。ガソリンスタンド、土木作業員、警備員、チラシ配り、また、バイト以外にもボランティアで、「街頭での交通遺児育英募金活動」も定期的に行っていました。これらを通じて、色々な方々との出会いや経験も今となっては一生の「財産」だと思っています。

さて、銀行員としての第一歩を踏み出してから、今年で33年目を迎えています。あつと言う間の33年、されど33年です。悩んだ時、苦しい時は、常に大学時代の厳しい部活動を思い出しながら、自分に「大丈夫！」と言いつつ、何とか乗り切ってきました。また、白門OBの諸先輩の方々には公私に渡り随分と応援して頂き、「感謝」の一言です。私がまだ20代後半の頃、鹿児島島の川内支店に転勤になった時のことです。アパートを探しに最初に飛び込んだ不動産屋の社長様がたまたま白門OBの方でした。お話しをする中で私が後輩とわかるや、それ以降地元白門OBの方々を紹介して頂き大変お世話になりました。この時、全国どこへ行っても「白門」は「金看板」であることを実感しました。

地元熊本のOB会にも永らく関わりを持たせて頂いており、今日まで色々な思い出があります。特に印象深い出来事のひとつとして、ひと昔前の話しになりますが、「一時期」白門経済同友会」なる組織がありまし

た。尾池先輩(故人)、岩田先輩を中心とした数名の先輩方が、定期的な勉強会をやるうと言っ趣旨で立ち上がった組織でした。会を立ち上げるにあたり、尾池先輩の応援団の後輩であられた鈴木先輩(故人)が実務面の責任者になられました。実はその下請けが私でした。会が立ち上がるまで鈴木先輩から手書きのFAXが頻りに届き、「大至急パソコンで打って、帰りに家に届けてくれ、とにかく急ぎで頼むばい！」、先輩からのご指示なので、「はい、わかりました！」と、仕事そっちのけでやりました。記憶では勉強会は一度だけでした。実はこれにはまだ続きがありまして、今度は尾池先輩が全国のライオンズクラブの中に大学の同窓生で立ち上げたクラブがないので、ついでに「白門ライオンズクラブ」を立ち上げようご提案されました。話しは決まり、すぐさま準備に取り掛りました。ここでもまた鈴木先輩から「また頼むぞ！」と檄が飛んできました。しかしながら思う様に進まず、最終的には立ち上げて間もなかった、「白門経済同友会」が「白門ライオンズクラブ」に代替えすることで決着しました。今では「白門ライオンズクラブ」は熊本市内でも古参クラブのひとつとして一目おかれる存在となっています。15年近く前の話しですが昨日の事のように思え、今でも鈴木先輩から「まことちゃん、頼むばい！」と、電話が鳴りそうな気がします。良き思い出を作った頂いた鈴木先輩には本当に感謝しております。

最後に、栄えある90周年記念会報に寄稿させて頂きありがとうございます。

中大の
想い

中央大学剣道部 心の継承

九州学院高校剣道部監督
米田 敏郎(平成4年卒)

昭和64年に私は九州学院中・高等学校から、剣道でズバ抜けた戦績を残した訳ではありませんでしたが、縁あって、当時の大学剣道界で最多優勝回数を誇る名門中央大学剣道部の門をくぐらせていただきました。

大学生活は、日野市南平の中央大学体育会寮「南平寮」から始まりました。剣道部は、1部屋10畳の和室に4年生2名3年生2名2年生2名1年生2名の8人部屋で1階フロアの5部屋で生活をしていました。当時はエアコンもなく、まわりには大きな建物もなく、数少ない楽しみの中で大学生活を送っていた記憶があります。寮生活では、1年時には「部屋当番」という仕事などで何物にも代え難い貴重な経験・体験をさせていただきました。2年・3年・4年は、あつという間に感じられ、大変充実した楽しい思い出ばかりです。

この寮で仲間と過ごした4年間の経験は、今日の私の心支えの1つになっていると言えます。しかし、もう一回大学生活をやるかと聞かれたら「1年生だけは、お金をもらってもお断りします」と即答します。

剣道部では、当時、部長・高木友之助先生(故)、師範・中倉清先生(故)のもと、監督・津村耕作先生(故)にご指導いただきました。その指導は独特のものがありました。各試合においての戦術、選手の気持ちをコントロールする術は素晴らしく、選手起用法などは独特で驚かされるほどでした。おかげで、関東新人戦大会・関東大会・

全日本大会などで、優勝・準優勝などの思い出深い貴重な経験をさせていただきました。津村先生は、大会でその選手の持っている力以上のものを出させる術があり、「津村マジック」と言われるほどでした。それは日ごろから監督と選手という間柄だけではなく、一人の人間として深く厚くかわかって頂き、ご指導いただいたおかげだと思っております。組織の一員としての大切さ・厳しさなどは今も私にとって心の財産となっています。祝賀会・合宿の納会などでは、選手と共に喜びを爆発させ誰よりも喜んでいただいた記憶が今も鮮明に残っております。先輩方や同輩・後輩と共に、苦しいことに



第34回関東学生剣道新人戦大会 (昭和63年)



中央大学剣道部秋田合宿 (昭和63年)

立ち向かいそれを乗り越えていく強さをここで学ばせていただき、「優勝」という形のある栄冠だけではなく、「心」という目には見えない栄冠をいただいたと思います。

平成4年に大学を卒業と同時に、母校の九州学院中・高等学校で社会科の教師として剣道部の監督をさせていただきました。卒業後に津村先生が九州学院を私用で訪問なさったときに、熊本弁で一生懸命に指導する私を見て「お前いい監督になるよ」と言ってくれた「津村マジック」が、全国選抜大会・全国高校総体・玉竜旗大会で高校剣道界の連続全国優勝記録の樹立につながっており、今は「米田マジック」と言っていたと思います。今後も、中央大学で学んだ「心」(朽ちない栄冠)を指導する生徒たちに継承していきたいと思えます。

九州電子株式会社

代表取締役社長

北澤 永通

(昭和58年卒)

グランツ株式会社
印刷・デザイン

代表取締役

吉田 秋正

(昭和56年卒)

荒木公認会計士事務所

公認会計士・税理士

荒木 幸介

(昭和53年卒)

熊本城桜の馬場
リテール株式会社

代表取締役社長

丸本 文紀

(昭和53年卒)

特集
私の履歴書

夢は夜開く

税理士法人未来税務会計事務所代表
西田 尚史(昭和47年卒)



私の人生の原点は、夢は夜開くにあります。私が中学校を卒業した時代は

金の卵と言われ、大阪や名古屋、東京と夜行列車で集団就職でした。私の同級生で高校へ進学した学生は、1000人位の卒業生のうち10人弱だったかと思えます。行きたくてもお金がなく親に迷惑をかけるので、夜間学校に行かせてくれる職場を選んだのが、名古屋の鶴飼勉税理士事務所でした。中学校を卒業したばかりの私に、税理士業があることを分るはががなく、学校に行かせてくれることが大事なことでした。仕事をしながらですが、学校は大変楽しいところでした。ほとんどが私と同じ境遇の学生でしたから、話はずみ、学校の授業が即仕事に直結します。夜学の勉強が昼の仕事に活かせるので、メキメキと上達するの自分でも分かり仕事に生きがいを感じたものです。私はソロバンを習っていません。私にはソロバンを習っていません。高校が終わったソロバン塾に行き先生へお願いして3月位で2級を合格させて下さいと頼みました。すると、夜遅く帰るので不良学生

になつてはいるのではないかと鶴飼先生から呼び出しを受けました。私は、結果が出るまで待つて下さい必ずお話ししますと言って黙っていました。合格後その旨を話したら、そうかよくやったねと誉めて下さいました。先生には子供同様に育てて頂きました。

就職して1年間は、室内の掃除、机の上のペンの手入れ、インクの補充、事務所や自宅の庭の掃除とあつという間の1年でした。そして1年後、初めて会社の決算を取り組んだところの会社の名前は今でも忘れていません。

夜間学校は4年で卒業でしたが、私は5年かかりました。私はその時、中央大学に通い働きながら税理士を目指そうと思えました。しかし、頼れる人がいない不安より、東京へ行き会計士や税理士になろうと夢見て、頑張ろうと思ったものです。中央大学は当時、弁護士、会計士、税理士が全国でトップでした。早稲田大学や慶應大学よりも、大きく差をつけていたのですが、あれから45年、中央大学の名は落ちました。昔の面影が早く戻ってきてもらいたいと思っています。中央大学の理事長や学園長の先見の目がなかったのでしょうか。中央大学は東京から離れたから、人気落ち学生が集まらなくなったのです。中央大学の学生は、質

実剛健で働きながら学ぶ学生が多いことを、トップの理事長達が知らなかったのが原因だと思えます。

中央大学で学び多くの人々と交流が出来て、何よりも税理士になれたことが一番の幸せであります。目標を持ち、前を向いて、特に夜、学問に励むこと、これが夢は夜開くであります。夜間で学び仕事で実践して日々向上していき前を向いていました。そして、これからの私の人生は、未来を語り、未来を創り、未来に残す、であります。故郷鶴飼勉先生のお蔭であったことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

もう一度、トップの中央大学を目指して下さい。理事長等経営者へ

随時会員募集中!!

熊本白門ライオンズクラブ



ライオンズクラブ 国際協会 337-E地区1Z

当熊本白門ライオンズクラブは、中央大学の学員会に所属する者だけで構成される全国でも珍しいライオンズクラブです。入会して新しい人脈を広げてみませんか。
〒860-0041 熊本市中央区細工町1-51 スコーレビル2F
TEL 096-312-6300 FAX 096-312-6503

司法書士
峰松英明事務所

司法書士
峰松 英明
(平成2年卒)

新産住拓株式会社

代表取締役社長
小山 英文
(平成2年卒)

アステア税理士法人

代表社員税理士
千田 基史
(昭和63年卒)

合同会社瑞穂恒産

代表社員
河崎由紀夫
(昭和59年卒)

特集
私の履歴書

大学の駿河台校舎からホテルへ出勤

ハツ波 孝幸
(昭和45年卒)



レストラン・バー「こめ&葡萄」オーナー

北九州市の門司港で生まれ、小倉の中学校・高校を卒業し、一浪して商学部会計学科に入学。鉄工所の長男ながら後を継がずサービス業に就きたくてホテルマンになるなら東京の大学だと上京。純喫茶からバー、クラブ、キャバレーそしてホテルと大学時代に業態別の飲食店を経験してきました。派遣会社を通じて帝国ホテル、白金迎賓館、赤坂プリンスホテル、フジテレビ、ニッポン放送などに勤務したのは貴重な経験でした。中央大学に入学して最初に驚いたのが、学長が升本喜兵衛氏でしたが、理事長が東映の大川博氏だったことです。子どもの頃から東映の時代劇で育った自分が大学で大川氏の名前を目にするとは。お茶の水という場所は授業が終わってホテルに勤務するにはとても良い立地でした。ゼミは人事労務管理の長谷川広教授に師事し、卒論は2年掛かりで「ヒューマンリレーションズの起源に関する一考察」というタイトルで書き上げました。

来熊したのは昭和58年、結婚式場開設のため茨城県・水戸市の会社を退職してからです。熊本に人縁、地縁のない私にとって知り合いをたくさんつくるのが大切、白門会の総会に出席して名刺集めをしました。当時の北口代議士や藤田参議院議員、現熊本県文化協会の吉丸会長、鶴屋百貨店・宮嶋社長、九州総合サーブ・尾池社長、アイウツドダイウ・福永会長、セルモ・安田社長、山中弁護士、紫垣弁護士、坂本弁護士、塚本弁護士、シアーズホーム・丸本社長、渡辺洋服店・渡辺社長、岩田コーポレーション・岩田社長、岡末商店・岡本兄弟などお亡くなりになった方もいらつしゃいますが多くの方と知り合いました。

昭和59年に尾ノ上にオープンしたサンパレス熊本は当時熊日広告社に勤務していた同窓の井村氏(現在ホテル日航・監査役)に広告宣伝を依頼し、私が退職する平成12年までお世話になりました。現在私は、マーケティングのコンサルティングを業務としながら日本酒とワインのレストラン・バー「こめ&葡萄」を運営しています。

特集
私の履歴書

学生時代の思い出

近代日本美術協合理事・やなが商店社長
彌永 磨 (昭和35年卒)



私は昭和32年4月中央大学商学部に入學致しました。終戦からまだ12年で日本全体が貧しい時代でした。新宿もヤミ市が残っていて、現在の都庁の場所には水道局があり、遠く迄見通せました。私は県所有の有斐学舎に入寮し都電で神保町まで通学していました。神保町は古本屋が残っていて、以上に本屋もあった様に思われます。安い本をみつければ、読書していました。部活には入りませんでした。中古のスケート靴を買い、寮の先輩と、新宿コマ劇場近くのスケート場や代々木のスケート場に行っていました。当時有斐校舎は文京区高田老松町にあり、新宿と高田馬場には良く遊びに出かけていました。すぐに友達も出来、タンゴの好きな友とは、代々木の講会堂に行っていました。一人の友は画家の息子で、招待券をよくもらい暇を作っては上野に出かけていました。大学があつたお茶の水と上野間は、当時10円でした。公園の近くにある「考える人」その他のモニュメント等が出来たのは、昭和34年だったと記憶しています。寮

でも活動している学生がいて泥まみれになり帰って来る人を見、見る事もありました。寮には体育館、シャワー室、講堂が有りテレビも昭和34年に設置され、プロレスが盛んな時で皆んなと観戦したものです。一ヶ月三千円入金しますと、朝夕の食事が出来ていました。中食は大学の食堂で「パンと牛乳」、「カレー」を30円で食べる事が出来ました。後楽園に大学の運動場がありましたので、野球も良く観に行きました。当時の中央大学は箱根駅伝も強く、私の在学中には、二度優勝したと記憶しております。現在は少し弱くなつて、残念な思いもあります。大学の教室の窓からニコライ堂の良く見える場所がありましたのでスケッチをして、その油絵も一枚残っています。家業を継ぐ約束で入学したせいか、友との交流や見聞に夢中で、講義の内容は余り記憶にありません。昭和34年青山に日本で最初のスパーが出来ましたので大学の講義も欠席して、見学に行きました。36年帰郷し10月に実家をスパーとして開店し、それから35年間会社経営に頑張つて来ました。平成7年、店を別のスパーに貸与し、現在は町のボランティア活動に励んでいます。今、私の趣味の絵画とゴルフを頑張っている毎日です。あと10年90才までは元気でいたいと思っております。又孫の成長も楽しみにしております。

特集
私の履歴書

百年続く福祉を目指して

清香園・明日香統括施設長
山内 泰人(昭和46年卒)



叔父が司法試験の勉強会の創設者だったことで一族に13人も司法職が居ました。私も中大ばかり受験したところ、経済学部だけ合格したので、「浪人する」と言ったら「勿体ない、転部試験もあるから」と言われ入学しました。折からの安保改定の学生運動で、勉強する雰囲気は全く無くて、卒業証書は学生課の窓口で学証と交換といった大学生活でした。外資の会社で意欲的に働いていましたが、肺結核になって「環境の良い故郷が有るなら帰りなさい」と言われて、帰熊しました。その後理想的な回復ぶり、あたかも帰省を仕組んだような病でした。画商を始めましたが、第一次オイルショックのバブル崩壊後で大変でした。その頃全国版の高い絵画を買えるのは開業医ばかりで、財布を握る奥さんに宝石や着物を買ってやった上でない」と夫の趣味には金が出ないという現実でした。京セラが人工の宝石を開発したので代理店をしましたが、これがまた苦勞でした。先行き思わしくないの、自主廃業して、次の思

案をしていました。母が創業して今年50周年を迎えた障がい者施設清香園が実習で行っていたイ草栽培と畳表製織を花莫塵に進化させようと福岡県農試筑後分場に見学に行くのに同行したところ、田中忠興先生の日本クラフト展大賞を取った素晴らしい仕事に魅せられました。研修を志願する職員が居ないので「貴方は暇だから、研修して職員に教えてやって!」となつて、3ヶ月通つて技術習得し、ボランテアで製造装置設置・デザイン・技術教育をしていたらあつという間に時が過ぎ、その間に同年代の職員は給料はおろか賞与まで貰っています。「さしより臨時職員になれば、小遣いをやれるよ」かくして現在の統括施設長になるまで40年間清香園に居着いたのです。向いていたのか?日本クラフト展に入選した銀座松屋百貨店で良く売れて取引が出来て、有名百貨店に拡散しました。銀座から売れ始めた品です。福祉施設として今も唯一の県伝統的工芸品の指定を頂いています。作業収益の還元としての16回もの海外修学旅行は画期的なイベントでした。最近福祉施設として初のブライド企業に認定されました。

持続可能性が問われる時代です。百年企業になるよう、思案してまた一歩踏み出します。

特集
私の履歴書

悪夢のNHKのど自慢

くまもとDMC(熊本県OB)
國徳 健二(昭和57年卒)



あれは、衝撃的な2日間でした。平成2年2月、NHKのど自慢予選会が人吉市で開催され、職場の同僚から誘われ気軽に参加し、沢田研二の「危険なふたり」を激しく踊りながら歌ったところ、本選出場が決まったのです。予選会終了後、翌日の本選に備え、本選出場者25人は、夜までリハーサルが行われ、帰宅後のど自慢出場を伝えていなかった妻に本選出場について報告したところ、妻は激怒し「あなたのために夕食を作っておいたけど、あなたに食べさせるご飯はない!!私は明日、息子(当時1歳)と一緒に実家に帰ります!!」と荷物をまとめ始めました。妻は自分の夫が全国放送(同年4月)で恥をさらすのが我慢できないようでした。「これで離婚されたらまずい。」と思い、歌に込められた意味を夜中までかかって妻に説明したところ、何とか実家への帰省は思い止まってくれました。翌日の本選は、早朝から再度リハーサルが行われ、本番に備えました。しかし、本番で



熱唱!!「危険なふたり」

いざ自分の番になった時、極度の緊張で頭が真っ白になり、声が上がらずほとんど歌にならず、1分ほど踊っただけで終わってしまいました。そしてゲストの川中美幸さんから「危険な2人というより、危険な1人ですね。」と笑われ、悪夢の2日間が終わりました。それ以降30年間、リベンジのために毎年申し込んでいますが、4回予選会に出場できたものの、2回目の本選出場は未だできていません。しかし、この経験のおかげで歌うことの楽しさを覚え、自分で歌を作ったり、合唱団にも参加、荒尾・玉名での郷土芸能活動など様々なジャンルに挑戦、現在はシャンソンを練習しています。

特集
私の履歴書

人生一番の宝物

清水 正治 (昭和53年卒)



熊本駅から西部へ、有明海に面した白川と坪井川の西河口に挟まれた、熊本地方卸売市場に近い家が生まれました。家の敷地面積は、五百坪位の平家造りで、周りは梅林で囲まれておりました。私の日常の暮らしの中では、小学校入学まで畑に囲まれた静かな田園都市で、周りには四、五軒しかなく、生業として兼業農家で、両親と三歳離れた弟の四人家族でした。台風が接近するたびに雨戸がガタガタとゆれる音が怖い木造の家でした。生い立ちは、一九五四(昭和二十九)年生まれ、当時熊本県官吏だった私の父と母は、血縁のない親戚同志で結婚し、私は長男として生まれました。祖父は戦前飽田村土河原(熊本市土河原)で青果物の軍事の御用商人として、新町の軍の寄宿舎まで食料を納品し、次男の父は、戦後商人としてではなく、役所に勤めておりました。私は幼い頃は悪ガキで、夏休み、冬休みの期間中は、父の生家で過ごし、町から遊びに来たよそ者であつたので、毎日ケンカの日々でした。従兄と一緒に、白川の清流で泳いだり、体力に自信ができた時期でもありません。小学校五年生から竹馬の友で三軒隣の年が一つ上に、野球、剣道を掛け持ちされている先輩から、私が余りにも悪ガキであつたので、剣道部に入部の誘いがありました。相手と竹刀で

打突出来る人、正座して、礼に始まり礼で終わる武道をすれば、礼儀も正しくなり、少しは人として立派な人成長出来るだろうと思つて入部を進めてくれました。先輩は地方で神童と言われて、学問、稽古に励むアスリートでありました。

剣道を始め、隣の一新小学校、西山中学校の岩田英志先輩との出会いがあり、熊本県下警察の少年防犯剣道大会等で一緒に南署の代表者になりました。とても可愛がつて頂き、岩田先輩に憧れて、同じ高校に進学を決めました。男子校のミッシェンスクールでは、厳しい稽古を三年間退部もせずに、頑張り続けました。練習のない日には、帰りに上通りのピリヤード、喫茶店、ダンスホール等に連れて行ってもらいました。坊主頭で恥ずかし、今の高校生では、停学になっていたかもしれませんが、当時は古き良き時代で、先生方も寛容な方ばかりでした。

私は一浪の末、すでに入学されている岩田先輩(中央大学学員会熊本支部長)を慕い、昭和四十九年、お茶の水にあった駿河台校舎の中大に入りました。お茶の水は日大、明大、東京医科歯科大、文京女子大等の大学も沢山あり学生の街でありました。細川藩の下屋敷で目白台の田中角栄首相の裏側で一八八一年(明治十四年)の創設で有斐学舎が宿舎で、大学生活が始まり、同期入舎は丸本文紀君(中央大学学員会熊本支部長)、橋本和久君(学員会副支部長)と入舎しました。昭和五十一年に弟が上京して、中大剣道部へ入部した年に岩田先輩はすでに卒業されていきました。学生生活は、両親の負担

が掛ると思ひ、日本育英奨学金(熊本出身の緒方信一会長)から奨学金の援助を頂きました。四年生の時は、十六科目中十五科目の単位習得しなければ、卒業できません。ですから、中大図書館に毎日通い無事に、年末には地元就職の内定を頂いていました。エピソードとして、昭和五十三年三月卒業の掲示板を見に行ったら、名前がありませんでした。学費値上げ反対の学生運動の影響もあり、大学に司法試験の為に大学留年しながら、勉強された学生が多く、当時は大学八年生は、入学の授業料六万円であり、七年生、六年生、五年生、四年生の別々に掲示されていきました。四年卒の発表を見つけて、名前があり安堵したら、高熱が出てしまいました。有斐学舎の寮母さんに看病され、病室へ三日間通院しました。点滴を受け、卒業式に出席できませんでした。三月末まで宿舎に残り、学生課へ、成績・卒業証明書を取り行き、無事に中央大学を卒業出来た事が、私の人生の中で一番の宝物です。



有斐祭での思い出 (昭和51年)

熊本銀行
白門会一同

肥後銀行
白門会一同
会長
塚崎 隆之
(平成2年卒)

アリオン法律事務所
弁護士
宮崎 耕平
(平成13年卒)

株式会社 上田商会
代表取締役
上田 修司
(平成5年卒)

特集
私の履歴書

ボクシングから教わったこと

熊本市職員
中川 一弘 (昭和57年卒)



「ヤマトダマシイ」。ボクシング世界チャンピオン藤猛は、勝利後のインタビューで決まってこう言った。小学生のころ、ブラウン管に映るそのまぶしい姿に強い憧れを抱いたものでした。

東海第二高校（現熊本星翔高校）に入学しボクシングを始めたが、20人ほどいた新入部員は厳しい練習に耐えきれず、ほとんどがやめていった。1年時の新人戦で、2年生に判定で負けてしまった。家に帰ると母から「負けると思わなかった」と言われたが、その寂しそうな顔が忘れられない。それから奮起し、高3の時、国体予選で優勝し、青森国体では団体3位の成績を挙げることが出来た。

昭和53年中大法学部に入学生し、日野市南平の寮に入った。都会生活に憧れていたにも拘らず、当時は熊本よりも田舎で、カエルの鳴き声で眠れない程だった。その代わり、練習環境には恵まれ、早朝6時、10キロのランニングに始まり、授業の後、夜遅くまでボクシング漬けの日々が始まった。当時の斎藤監督は、ボディを打たれてのダウンは許さない厳し人人で、毎日1時間、合宿時には2時間の腹筋運動が日課で、尻の皮がむけ、風呂に入るのも痛くて閉口した。減量にも苦労したが、2週間です10キロ落とすこともしばしばあった。こうした厳しい練習の御蔭で、



3年時農大の牛と言われた藤井選手（右）とのリーグ戦。

当時の中大はリーグ戦や国体等、戦績も華々しく、個人的には4年時、全日本3位の成績を挙げることが出来た。卒業時にはプロの誘いもあったが、プロの世界は、たとえ世界チャンピオンになれても厳しく、練習に勝るとも劣らない猛勉強を経て、熊本市役所にお世話になることになった。辛うじて卒業できたのは、部活の友人をはじめ、法学部のクラスメイトに恵まれたお陰と思っている。その後中大ボクシング部は、低迷が続き、2部に降格していたが、私と同期でモスクワオリンピックの代表に選ばれた樋口伸二君が監督になつてからは1部リーグに復帰することが出来、現在に至っている。ボクシングは厳しい勝負の世界だが、勝つも負けるも、全ては自分の努力次第、相手に勝つのではなく、厳しい練習に耐えて自分に克つことを教えてもらったと思っている。来年の東京オリンピックでは、後輩たちには是非活躍してもらいたいと願ってやみません。

肥後もっこす本舗




代表取締役
岩田 英志
(昭和51年卒)

株式会社 岩田コーポレーション
〒861-5533 熊本市北区和泉町168-18 フードパル熊本内
TEL096-245-5211 FAX096-245-5218

本田税理士事務所



税理士
本田 勝範
(昭和52年卒)

〒861-2234
熊本県上益城郡益城町古閑551-5
TEL 096-289-0990

熊本大同青果株式会社
株式会社大同リース



代表取締役社長
月田 潔 孝 (昭和59年卒)
宅地建物取引士



〒860-0058 熊本市西区田崎町484
TEL 096-323-2505
FAX 096-323-2503
E-mail: kyfender@kdaido.com

日替わりのお弁当を
会社やご自宅に...



一食からお届けします。

(株)ピライ 給食宅配サービス

おいしいな ぎゅうしょく

フリーダイヤル 0120-047-949

S60年卒 平井 謙丞

